

資料

資本制崩壊過程に於ける

金融資本の法的性格(一)

——ロシヤ「亡命會社」發生の社會的基盤——

岡 本 善 八

如何なる學問と雖も何らかの意味に於て實踐的課題とつながらぬものはない。本稿に於て提示された社會變容に關する一類型の考察の意圖もその例外を形成するものでない。

一の事象の法的性格を究明するに當つてはそれを支える社會基盤への著目なくしてその充全なる解決を期する事困難である。その事既存の社會基盤が「Aufheben」されんとする過程に在ればある程眞である。かかる意味に於て本稿のテーマ考察に於てわ第一にロシヤ資本制崩壊準備期を特徴付ける外國金融資本の具體的様相・第二に國有化布告により端的に表徴せられる資本制崩壊過程に於ける諸企業の変容・最後にその際に於ける特に資本會社の自己展開ともいべき「亡命會社」の様相・その法的考察を三つの展開段階として持ちたい。

近代資本主義の發展わ企業資本の有機的構成を高度化ならしめその事必然的に金融資本の産業資本への支配という現象を生ずる。然るに當該國家の資本主義發展が後進性を帯びる場合に於てわその産業資本わ國內金融資本を通じて外國金融資本の支配を受けるといふ二重の被支配構造を示す。

かかる意味での外國金融資本の支配下にあつた植民地的國家の自己超克、そこに廿世紀初頭のロシヤ經濟の一の特殊性が存する。

もとより此の場合に於ても外國資本わ直接にロシヤ産業資本へと繋がるなかつた譯で^{註1}ない。然しここに特に金融資本を考察の基點として採上げる所以わ第一に前述せる産業資本に對する金融資本の優越性によるものであり、第二に土地に定着する事を本來的特質とする産業資本に對しより國際的流動性を示すものわ金融資本であり、従つて一國の資本制崩壊を觀るや逸早く他の資本制國家に自己保全を見出すが如き作用を營む事わ後者に於てより大なる頻度を有すると考ふる故である。

註1その事も決して輕視すべきではない。例えば英人 John Youth の Donetz 冶金工業・同じく Knop 男爵のモスコ 織物工業・スウーデン人 Nobel の石油工業に於ける創始者の地位。更に Donetz の冶金及び石炭工業は大部分フランス及びフランス・ベルギー資本による開拓過程に負うものである。

又株式數に就ても露西亞全體の株式資本中外國資本は

一八九〇年^{註1}二五%、一九〇〇年^{註2}三七%、一九一四年^{註3}四三%でありそれには燃料及び金屬工業等の如き決定的部門を含む。Alexander Krimmer, Sociétés de Capitaux

en Russie Imperial et en Russie Soviétique, 1934, p. 121

以下、伊部政一氏、社會化計畫經濟論、昭和十八年、p.

159 参照。

一

一八七〇年より一九〇〇年に至るロシア銀行の様相を取引銀行としての性格を示さず、信用保持機關としての機能をより強く示している。^{註2}より具體的にいうならば、一八九八年に於てロシア銀行保有有價證券中工業株の占める割合僅少である。之等金融資本の産業資本への浸透の程度もその保有證券が價格に於て三百萬ルーヴルを超えず例えばインターナショナル銀行に於てわその保有有價證券の六分の一を占めるに過ぎず、又十九世紀末期に於てわインターナショナル銀行を除いてわ如何なる銀行も二千萬ルーヴルを超える資本額を示していないことから推定し得る。此の事わ又當時のロシア經濟に於ける資本主義機構が、株式募集を媒介とする金融資本の膨張を加速度的ならしめ得ざる程度にしか成熟していないことを意味するものといえよう。

然るにここにロシア經濟わ資本主義機構發展の一般原則に對應して機械設備の増加・個人企業の株式會社への轉化・需要増

加に伴う生産増大の必要性わ産業資本に對して資本及長期信用の急速なる缺亡を結果することとなつた。^{註3}例えば一九〇九年ロシア銀行報告に於て我々が見出すところわ「ロシア銀行の現實的地位わより強力なる金融機關・より大なる組織に於ける資本集中を必要としている。我々わ我々の銀行の能力を永續的工業企業の有機化或わ金融又は一般的に工業各部門に於ける援助の爲に用いるべきことを提示するのである」或わ又シベリヤ銀行の取締役會わ一九一二年四月七日の總會に於て同様趣旨の宣言をしてゐる。「最近に於ける各國に於ける經濟狀態及び金融機關の活動に於ける變化に於て銀行による工業企業への金融の必然性わ増加している。シベリヤ銀行が此の方針を顧慮しないならば、他の金融機關の後塵を拜することとなる。此の遺憾なる結果を避ける爲にわ資本強化の爲の依頼手段を持たねばならなかつた。……」又同報告に於て銀行資本の補給に就てわ「銀行わその回轉資金を補充する爲に、何よりも先づ一般的にわ金融依頼手段より具體的にわ外國資本への依頼手段を持たねばならぬ。外國に對する我々の負債わごく最近わ恒久的となつた」^{註4}人わここに於てロシア經濟に於ける外國資本の浸透の仕方を知る。即ちロシア内部に於ける金融資本の産業資本への支配過程の成熟以前に、即ち銀行の取引銀行への自己變容の必然性に先立つて金融機關わ國際金融への依存手段を一層擴大せねばならないという運命に置かれる。その事わ一八九九年の恐慌を契機とする事により一層促進せられた。^{註5}斯くてそれらわロシア經

濟支配具體的にわフランス・ドイツ・イギリス資本のロシア銀行資本に於ける確定的浸透帯の形成を結果する。

註2 十九世紀末より二十世紀冒頭に互る外國金融資本の浸透の様相に就ては之を數量的に示したい。尙此の點に就ては Alexander Krinner, *ibem*, p. 137 以下に負う。

註3 産業資本主義の金融資本主義への轉換は之を十九・二十世紀の交に求め得る。それは又ロシア國民經濟が有機的に世界資本主義體制の組成に入つたといふことである。

従つて我々は外國金融資本の浸透を單に資本主義の一般的合則性といふ點のみならず、全體としての全世界資本主義經濟の發達行程の條件からも出發せねばならない。

この意味に於て第二のファクターとして一八九九年に於けるロシア恐慌が擧げられねばならない。P・I・リヤシチェンコ(東健太郎譯)ロシア經濟史下卷 p. 211 以下

註4 La Bourse (Revue hebdomadaire), 1912, no. 16, 參照

註5 例えばそれを契機として保有證券の賣却の如き現象が生じた事が擧げられる。ロシア銀行保有證券は三七、四五

九、〇〇〇ルーヴル(一九〇〇年一月一日)より三三、八五五、〇〇〇ルーヴル(一九〇五年一月一日。一三%減少)。その甚しきものはインタナショナル・セントペテルスブルグ銀行の三六%減少、割引貸付銀行の七五%減少等。

三

今ロシア主要銀行に於ける外國資本浸透を逐次考察するに就てわ、先づ一九〇五年に第一足跡を印したフランス資本の影響を擧げねばならぬ。即ち露支銀行株のパリ銀行及その子會社たるネザール銀行を含むパリシンヂケートえの大量賣却及び略々時を同じうするパリのゼネラル銀行の殆ど總額にのぼる北部銀行株の保有である。兩者わ一九〇九年に於ける最後の合同を契機としてハ露亞銀行Vえと發展した。ここに於て一九一〇・一九一二・一九一三年の三度に渉る増資を経てゼネラル銀行・パリ銀行・ネザール銀行の支配を決定付けた。一九一三年三月十一日の總會報告によれば株式數五八、〇八五株中五七・六%がフランス資本に屬する。

ハセントペテルスブルグ商業銀行Vわ第一次に一九〇九年にフランス資本の浸透を受けている。この商業銀行の改造及資金窮乏の補充の役割を果したのわ Mobilier 銀行の信用に依存して形成せられたシンヂケートであつた。第二次に一九一一年にパリ銀行・ネザール銀行・ゼネラル會社に負う所の資本増加わ一九一二年露亞銀行との間の《商業及鐵道企業の共同金融に關する》協定に依るものであつた。此の二つの行爲わフランス資本の流通路としての性格を決定付けたものである。尤も之らのパリ諸銀行わ其の間に於て總會に於ける多數を獲得し得なかつた。一九一四年四月二日の總會に依る六九、七五〇株中

Mobilier 銀行及パリ銀行わ二〇、七三三株(三〇%)を保有するのみである。^{註9}

△モスコイ商業銀行▽わセント・ペテルスブルグ商業銀行により組織せられたが、それわ一九一四年三月二日の總會に於てわ總株一九、五八三株中一二、四一七株が示されている。

△アゾフドン銀行▽わパリ・ナショナル割引銀行・ゼネラル會社・マルセーユ金融會社により資本五千萬ルーヴルに對し四千萬ルーヴルの増資を決行している。その株わパリ株式取引所に上場され、パリの他の銀行との契約によりその活動わ積極的となつたのであるが之らのパリ資本わアゾフ・ドン銀行に對して一九〇八年にモンスク商業銀行の總株式、一九一三年に砂糖工業の財源たるキエフ商業銀行の多數株の獲得を許容している。^{註11}

フランス資本の浸透帯を考察するに當つてわ「Deutsche Bank」に關する成功を無視することわ出来ない。それわハシベリヤ商業銀行▽の創業株を發行し、ずつと以前から關係が在つた。然し一九一二年に於ける増資及パリに於ける負債わフランス資本の優位性を決定した。一九一三年三月の總會に於てわフランス資本わ一〇、四〇〇株(二五%)である。^{註12}

モスコイに於けるより大なる金融機關と考えられる△合同銀行▽モスコイインターナショナル・オリール商業・南露工業の三地方銀行の合同より成る一わ一九〇八年パリ聯合銀行により設立せられた。一九一一年四月二日總會に於てわ總株四六、

一四六株中パリ聯合銀行及その委任者によるものわ二〇、九九八株(四五、五%)である。^{註13}

最後にリオン金融會社ロシア支店・露佛銀行^{註14}・ドンロストフ商業銀行^{註15}フランス資本に負う銀行網を有利に完成した。又ロツツ取引銀行も亦その多數株をもつ露亞銀行に從屬するものである……等々が擧げられる。

註9 Birjeva Izvestia, 9 October 1910, 30 Mai 1912, 5 Avril 1913.

註7その主要株主及び持株數は次の如くである。

- パリ銀行及びネザイランド銀行 四、六一一株
- A. Tiebre 四、一五二株
- G. Speich 三、九九四株
- A. Lombard 三、九六二株
- V. Bit 三、五五四株
- J. Durand 三、〇五六株
- N. Thalman 三、〇〇〇株
- G. Gobizolle 二、一五八株

ゼネラル會社及びその同族「Hottinger et Cie」に關しては N. Thelamon, J. Boule 及び H. Marie により代表せられ五、九一七株に上る。
而して MM. Hottinger, R. Mattarel, G. Raindre, Ne-tzeine, G. Durbreulle, M. Verstraite 等により取締役會内

に於けるフランス人グループは形成される。La Bourse, 1913, No 21. 参照。

註8 La Bourse, 1911, No 15.

註9 Idem. 1914, No 13.

註10 Idem. 1914, No 9.

註11 一九一三年十一月二十八日アゾフドン銀行總會に於ける取締役會の説明。

註12 La Bourse, 1913, No 11.

註13 Revue Mensuelle de la Bourse, Avril 1911.

註14 それはナショナル割引銀行及びブイオン金融會社に從屬する。

註15 之は Crédit Mobilie の子會社である。

四

ドイツ金融經濟と密接に關聯する銀行としてわハセントペテルスブルグ・インターナショナル銀行V及ロシア貿易銀行が算せられる。その創始以來前者わ Disconto-Gesellschaft と密接な關係を持ち、更に之わ S. Bleichroeder 及 Mendelssohn 銀行との協力の下にセントペテルスブルグ・インターナショナル銀行の増資の略々全額を一九〇五年より一九一四年間に於てドイツで消化する役割を果している。之に就てわ一九〇七年に於けるパリ所在銀行の干涉が考えられるが、それにも拘らずドイツわ此の事件に於ける優越性を保持した、より具體的にわ一九一三

年十一月十三日總會に於ける七二、六五一株中フランス株の二、〇三四株に對し、ドイツのそれわ二六、三三二株を示している。

△ロシア貿易銀行Vについてわドイツ資本の影響わより強力であり、一九〇九年の總會に於てわ Deutsche Bank わ四〇、一七八株中二一、五四八株という絶對多數を示す。而して之わ大部分一九〇七年の増資に依るものであつて、總額面千萬ルーヴル中八七、五%が Deutsche Bank、一一、五%がウイーン銀行團により引受けられている。

△セントペテルスブルグ割引貸付銀行Vの資本二千萬ルーヴル中四分の一わ一九一二年ドイツに於て Disconto-Gesellschaft 及 Mendelssohn 會社により引受けられている。

最後に帝國々境地方に於てドイツ資本に依存せるものとして△リガ商業銀行V△ロツツ取引銀行V△バルソヴィ商業銀行Vが算えられる。

ロシアに於けるイギリス資本わ△ロシア商工銀行V及△露英銀行Vを媒介として現われる。後者わ設立以來イギリス資本わ絶對多數を示し、前者に就てわ一九一四年三月二十六日總會でわ總數七二、七九一株中二一、九二一株を British Bank for Foreign Trade 九二〇三株を Krisp & Co. 銀行英國本店が保持している。

以上の諸分析に於て示される計數に於てロシア産業銀行に於ける外國資本の重要性わ略々推知されるところであるが然しそ

の間を通じてロシア株主わ若干の例外を除いては總會に於ける絶對數を確保して居た事わ留意されねばならない。従つて、ロシア銀行に對する外國資本の優越性及支配性を決定的とすることわ誇張に過ぎるであらう。然しそれにも拘らず一九一四年一月一日に於けるロシア諸銀行の總資本わ五八四、九八八、〇〇〇ルーヴルであり、その内外國資本わ四三三、九八八、〇〇〇ルーヴル(七四、二%)であり、更に細別すればフランス系わ三九、五%ドイツ系二七%・イギリス系、七・七%であるという。事も事の真相を究明するのに重要な手懸りを當えるであらう。以上に於て吾々わ外國金融資本が一九〇〇—一九〇九年のデフレ經濟に於て金融再構成の危機に置かれたロシア銀行をすぐれたる媒介手段として如何にロシア國民經濟に浸透したかを考察した。

註16 増資名目資本は二千四百萬ルーヴルである。
 註17 〆露西亞銀行〆により保持される。
 註18 その細目は次の通りである。

Disconto-Gesellschaft	三、八〇八
Dresdner Bank	三、〇七六
Mendelsohn et Cie	二、一六〇
Landhaf	九、四四七
S. Bleichroedey	一、〇二三
Comte Phersen	三、八〇八
N. Klimenko	三、〇〇〇

此の點に就ては Nouvelles de la Bourse du 14 novembre 1909. 參照。

註18 Idem. 26 mars 1909.

註19 それは千萬ルーヴルに對する千五百萬ルーヴルの増資である。

註20 〆リガ商業銀行〆わ Disconto-Gesellschaft 〆 〆ロツン取引銀行〆わ Mittel deutsche Creditbank 〆に從屬し、〆ベルンツイ商業銀行〆の株々 Disconto-Gesellschaft, Nationalbank für Deutschland 及び Mitteldutsche Creditbank 〆により保持せられる。

註21 La Bourse, 1914, No 13.

註22 外國資本が決定的に支配したのは 〆露西亞銀行〆 〆ロシア貿易銀行〆 〆露英銀行〆である。

註23 例へば N. Vanag の 〆ロシア銀行は外國銀行組合の單なる代理店に過ぎない〆とか 〆銀行は全く外國人の保有に歸した〆 (Le Capital financier en Russie a la veille de la Guerre mondiale, Moscou, 1925. p. 50, 53.)

註24 細目は左の通りである。

露亞銀行	四九、七三八
セントペテルスブルグ商業銀行	四〇、〇〇〇
モスコフ商業銀行	一二、五〇〇
アゾフ・ドン銀行	五〇、〇〇〇

シベリヤ商業銀行

二〇、〇〇〇

合同銀行

三〇、〇〇〇

露佛銀行

一〇、〇〇〇

リオンクレヂット・ロシヤ支店

三、七五〇

キエフ商業銀行

五、〇〇〇

ロストフドン商業銀行

五、〇〇〇

ロツツ商業銀行

五、〇〇〇

計

二三〇、九八八

△ドイツ資本關係▽

セントペテルスブルグ・インターナショナル銀行

四八、〇〇〇

ロシヤ貿易銀行

五〇、〇〇〇

セントペテルスブルグ割引貸付銀行

二〇、〇〇〇

リガ商業銀行

一〇、〇〇〇

バルソヴィ商業銀行

二〇、〇〇〇

ロツツ取引銀行

一〇、〇〇〇

計

一五八、〇〇〇

△イギリス資本關係▽

ロシヤ商工銀行

三五、〇〇〇

露英銀行

一〇、〇〇〇

計

四五、〇〇〇

(未完)

フオイエエルバッハの

『反ホップズ論』(邦譯)

——序文及び第一章——

加藤正男

譯者はしがき

一、本稿の目的は、フオイエエルバッハ(Paul Johann Anselm Feuerbach)の著書『反ホップズ、又は最高權力の限界と支配者に對する市民の強制[抑制]權とについで』(Anti-Hobbes oder über die Grenzen der höchsten Gewalt und das Zwangsrecht der Bürger gegen den Oberherrn)の序文及び第一章を譯出することにある。

著者フオイエエルバッハ(一七七五—一八三三年)は、刑法學者として有名であるが、民法や法哲學、國家論等の著作をしたこともある——本書『反ホップズ論』は、正に後者の一種——そうとうは、法の廣い法學者であつた。また本書(出版は一七九八年。序文の書かれたのは一七九七年八月一二日、[Jena])は、かのホップズの批判を通して、基本的人權を研究したものである。
(一)フオイエエルバッハについては、瀧川教授の多數の研究、Radbruch „P. J. A. Feuerbach.“等參照。